

令和3年度 第2回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和4年3月23日（水）午後2時から午後3時30分

開催場所 さいたま市立博物館 講座室

出席者名 委員：江里口友子委員長、新美和子副委員長、小宮るり子委員、杉山正司委員、鈴木樹子委員、野田和美委員、橋本正晴委員、広田由子委員、丸井章弘委員、鈴木和博委員、清水俊彦委員

（欠席：中村大介委員、初音みね子委員、牧野麗委員、宮瀧交二委員）

事務局：博物館長、博物館長補佐兼事業係長、同管理係長、同事業係主事、浦和博物館主査、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和3年度第2回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和3年度第2回さいたま市博物館協議会

市立博物館職員の司会により開会し、委員長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

議 長 それでは議事に入ります。最初の議題は令和4年度の事業予定について、委員の皆さまから御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

杉山委員 さいたま市立博物館の事業予定についてお伺いいたします。文化財保護課主催で、「さいたま市最新出土品展」が夏休み明けに2週間予定されています。各区にある博物館施設に巡回できるのではないかなと思いました。それから、「調査・研究」の中に、「博物館のデジタル化に関する調査・研究」という項目がありますが、具体的な方針のようなものがあるなら教えていただきたいと思います。

事務局 「さいたま市最新出土品展」は、毎年、市内の複数個所で巡回展示を行っております。展示スペースのある博物館としては市立博物館のみであるため、当館だけでの実施となっております。また、「博物館のデジタル化に関する調査・研究」についてですが、デジタルトランスフォーメーションにつきましては、市のデジタル化推進担当部署が、庁内各課から、どんなデジタル化が考えられるかという情報を集めて、それを一般企業に公表し、提案して頂く形を取っております。当館では「博物館等における歴史的資料の管理及び提供」と、当館資料を含めた市の歴史的資料について、一つのプラットフォーム

- ームでのデジタルアーカイブ化を進めたいと考えております。また市民の学習の広がり考えたものということで、学習者の興味・関心に則した学びを提供できるような形でデジタルを活用できないか、提案しております。
- 事務局 デジタル化につきましては、今、市全体で動きがございます。ただ、博物館というのは、例えば住民基本台帳などの基幹システムとはまた性質が違うものですから、そうしたシステムのデジタル化に次ぐような形で動いているイメージでございます。そして民間企業の方に手を挙げて貰って、「うちだとこんなことができますよ」というものを提案して頂きながら進めているところでございますが、「市役所のデジタル化」自体が大きなことでございますので、優先順位をつけながらやっていくという中で、時間を上手く使いながら、これから博物館以外、図書館かもしれないし、アーカイブスセンターかもしれないし、そういうところで連携をどうできるのかという部分について慎重に検討していくというところでございます。具体的にこういうものができるということは、今の段階ではご紹介できないのですが、そのようなことでご理解いただければと思います。
- 杉山委員 今回の質問と少し関連しますが、デジタル化をされて、将来的にはやはりホームページとか一般利用ということを目指していただきたいというのがお願いです。
- 広田委員 先ほどの事務局のお話を踏まえますと、民間の公募を前提としてデジタルアーカイブ化を考えているということですね。
- 事務局 市としては、そうしたことを専門としている民間企業のアイデアが欲しいという側面もあると思います。我々のほうでも、学芸員が整理をしている資料をどういう風に見せていくのか、どういうレベル感で、例えば市指定の文化財などをどのように見せていくのか、また、見せていくということではなくて、資料としてとっておく必要性もあるだろうというようなこと、どのように集めていくのかということも、民間企業のほうに検討してもらうということと同時に、博物館職員のほうでも、どのように資料を整理して、今後見せていくあり方に対して、どう結び付けていくのか、他の館の資料などどのように繋ぐことができるのかということを考えています。ただ、それは博物館サイドが考えていることで、政策として、予算のことも含め、どこまでそれが認められるかというところもございますので、そのあたりは私たちの方で、少し検討していきたいという段階でございます。
- 広田委員 それが実際、本当に実現したらアーカイブとしての機能と、あとは有機的な見せ方というか、それこそ学校の実際の学びに繋がっていくというような形で、すごく魅力的で有意義なものじゃないかなと思っていますので、ぜひ、推進していただきたいです。
- 事務局 予算とか政策的な問題があるので、そこをクリアするのが大変なことでありますが、3年から4年くらいのところで見通しが出てくれば、出てくるように努力したいと思います。
- 広田委員 実際、予算が非常に関わってくることはないかと思うのですが、だいたい3年から4年程度の見通しを持っているのですか。
- 事務局 そのぐらいを念頭に考えているところでございます。
- 議長 ほかの館についての質問、ご意見などはございますでしょうか。

広田委員
事務局 与野郷土資料館のお気楽講座というのはどのようなものでしょうか。
学芸員を中心に与野に関する歴史的な事項について、専門性の高い話ではなく、サンダル履きでいらしてくださいという講座で、なるべく平易な言葉を使いながら進め、それに関連する展示資料も帰りに見ていただくような内容になっております。

議長
事務局 ほかにご質問やご意見はございますでしょうか。では、続きまして議題の2に移ります。市立博物館の特別展について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 第46回特別展についてでございます。趣旨といたしましては、中学・高校と歴史の単元の中にも出てくる天保の改革につきまして、いくつかの政策のうち、比較的残存史料の多い儉約令、人返し令、上地令、将軍の日光社参などについて、どのような状況をどのように改革しようとしたのか、またどのような影響を与えたのか、さいたま市域の史料を中心に取り上げまして、当時のこの地域の状況がどうであったかをとおして、天保という時代の実態を見ていこうというものでございます。この展示は、中高生やその教員を主要な来館者層に想定しており、教科書に出てくる内容を中心に展示構成を考えております。

議長
杉山委員 何かご意見やご質問がありますでしょうか。
館の収蔵資料を使って、非常に良いことだと思います。寄贈した資料が多い中でこうして表に出てくるといのは、これからの資料の収集にあたって大きく寄与することではないかなという風に思います。ただやはり古文書が中心というお話で、しかも中高生・教員が対象の中心ということで、馴染みのない人を対象にしているの、一般の人が見たくなるような展示の工夫を、考えていただきたいと思います。古文書講座も企画されていますので、展示する資料をテキストで使うことによって、よりまた展示に親しみをもってもらえる人が増えてくるのではないかと思いますので、何か配慮をされると良いのではないのでしょうか。

事務局 古文書に馴染みがない方々が見たくなるような工夫というのは、例えばどのようなことがあるのでしょうか。今、お勤めのところで工夫されているような事例があれば教えていただければと思います。

杉山委員 やはり最低限積文は該当部分を必須として、大意をまとめる。あと、全て解説するのではなくて、要点だけを挙げる、一言でこの文書は何が書いてあるのだということでも十分だと思います。要約的なことをする、あとは子ども向けにキャラクターとかを入れて。ちょうど今、先週から始まりました国立歴史民俗博物館で中世武士団の展覧会が始まったのですが、これも比較的古文書ばかりです。中世古文書ですが、そうした工夫を、ところどころキャラクターを入れて語らせている。来館者も、かなり関心を持って見ていましたので、ぜひビジュアル的な工夫も取り込んでいく必要があるんじゃないかなというように思っています。

広田委員 儉約令とか統制令になると、昨今ですと節電とか、現代にも通じるような普遍的なところを示していくとか、古文書の中にも、現代とあまり変わらないことが書いてあるんだろうとか、そんなところを加えたほうがよいかと思えます。

- 鈴木樹子委員 今、見やすい展示というお話が出ましたけれども、今日、企画展の赤山洪の展示を見させていただきました。映像があり、ただ展示を見て歩くだけとは違い、すごく分かりやすかったです。言葉で耳から聞きますとそれが残るといふ利点もありますので、ぜひ映像も取り入れていただけたらよいと思います。
- 小宮委員 チラシを見て掴むというのがあると思うので、キャッチコピーみたいなことでも工夫していただけると、まずチラシを手に取り、博物館に向かうというのがあると思います。
- 丸井委員 私もさきほど企画展の映像を見させていただいたのですが、時間が30分と書いてある。なかなか普通30分って長いと思いますので、もう少しコンパクトにし、またビデオからビデオの次の再生が少し時間がかかるのを、工夫していただけたらと思います。
- 事務局 確かに30分は少し長いかと思いましたが、映像自体が借用したものでしたので、加工することができず、そのまま流しておりました。今度の展示で映像を流すことになった場合には、もう少し短めに作ろうと思います。
- 清水委員 今、中学校も小学校でも1人1台端末があってリモートで説明とか受けることができますので、アーカイブズとして撮っていただいたのを置かせていただいたり、リモートなどで配信していただければ、それをきっかけに興味が出て、さらに深く学ぼうとする子どもたちが出てくるという気がします。
- 広田委員 天保の改革というのは何年生くらいですか。
- 清水委員 2年生の歴史の分野です。2年生の終わりくらいですね。
- 広田委員 この特別展の課題を2年生の実際の中学生の皆さんに考えてもらうとか、実際に授業の一環で考えてもらうことは可能なのでしょうか。
- 清水委員 年間指導計画の中で、天保の改革であれば1コマ分で終わってしまうかと思うのですが、今、単元を通して江戸時代を貫いた形で、どのような時代だったかというテーマで学習や体験を組み、学芸員の方に学校に来てお話しいただくと、子供達もより深く興味をもってもらえると思います。
- 議長 それでは、次のテーマに移らせていただきます。浦和博物館のテーマ展につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。
- 事務局 浦和博物館テーマ展について、説明させていただきます。今年是新橋～横浜間の鉄道の開業から150周年を迎えたということで、鉄道を軸としたテーマ展を、令和4年5月から12月まで予定したいと考えています。イベントの構成としては、まず第1期は、鉄道と信仰、第2期は大宮地区・浦和地区・岩槻地区を代表する郷土史研究会とのコラボ企画として、市域に関する鉄道の話、第3期は、さいたま市と鉄道の発展、第4期は、鉄道開通がさいたま市の歴史に与える影響について考える講演会を開催する予定であります。
- 議長 長期にわたる内容になっておりますけれども、ご意見、ご質問はございますでしょうか。
- 小宮委員 夏休み期間中も入る期間なので、特に鉄道が大好きなお子さんたちがたくさんいらっしゃると思うのですが、夏休みの自由研究などへの対応は、何か考えてらっしゃいますか。資料を用意したりとか、講習会をしたりとか。
- 事務局 夏休み期間中、今交渉中ですが、全国子ども電車教室として全国の博物館や

公共施設に出張して電車を実際に走らせたりする団体があり、可能であれば、ご協力をいただきたいと思います。

杉山委員 年間を通して1つのテーマでやるというのは非常に良いことだと思うのですが、展示期間は10月から12月の2か月間に限られるわけですね。

事務局 交渉中の博物館施設もあるのですが、基本的には約半年あまりを通じて鉄道に関する資料を、何かしらミニ展示のような形でも発信したいと考えております。

杉山委員 鉄道をテーマにした年間を通した企画というのは、それを目当てに来られる方はいますので、小さな展示でもいいので何か展示を続けていただきたいなと思います。また今回様々な外部機関との連携・アプローチがありますので非常に良いことだと思います。自分たちだけですと見えないこともありますので、外からの支援というのは非常に大事ですし、お客さんの立場から助言というものも得られると思いますので、自分たちが気付かなかったこと、そういったところで気づきを得られるので非常に良いことだと思います。もう1つお願いとして、この鉄道の展示も学芸員の顔が見えるような事業や展示解説や見学会を盛り込んでいただけると良いかなと思います。

議長 ありがとうございます。鈴木(和博)委員から何かご質問はございますか。
鈴木和博委員 浦和博物館として、地域の鉄道の歴史にフォーカスした形で行うというのは良いことだと思います。上木崎小学校は鉄道の街のど真ん中で、学校の目の前にJRの官舎が6棟あって、保護者の中でもJR勤務の方がいて、その子供たちがたくさん通っていますので、鉄道大好きな子がたくさんいます。そうした子どもたちにも、さいたま市が鉄道の発達と駅ができたことによって、これだけ発展してきたという歴史に密接に繋がっているの、市の歴史を知る上でも非常に有効だと思います。

議長 青少年関係の立場で、何かご意見がございませうでしょうか。
橋本委員 鉄道というテーマだとどちらかと言えば大宮の文化というような形で話が出ると思うのですが、浦和の博物館でさいたま市全体の鉄道の文化に関して展示することは良いことだと思います。また、鉄道博物館との連携というのも可能であるならば、何かお考えになっても良いのかなと思いました。

議長 野田委員から、ご意見やご質問はございませうか。
野田委員 博物館と学校教育が連携することは素晴らしいと思います。学校教育の機関はもちろん、それ以外の人たちに対するアプローチを考えていくことも大切なのではないかなと思います。博物館は、実際に近くで見ることができたり、触れる機会があったりすると普通の教育とは違うと思います。やはり学芸員の顔が見えると、何が大事なのか、何を伝えたいのかが分かるので、そこが重要なところだと思います。映像とかアーカイブなどが充実していくと、家でパソコンやテレビで視聴しながら学習できるので、そうした意味で博物館としての生涯教育の役割を、今後学校教育サービスといった形で考えていただかないと、若者たちが博物館から距離を置いてしまうのではないかなと思います。

新副委員長 さきほどお話がありました、サンダル履きで行ける、気軽に行ける博物館というのはありがたいですね。また、この協議会は学校関係の方もいらっしや

- いますし、ぜひ野田委員のご意見を参考にさせていただけたらと思います。
- 事務局 浦和博物館につきましては、1年の中規模修繕工事、休館を経て、7月1日にリニューアルオープンすることができました。外観塗装のほか、中の展示の様子もだいぶ変わりました。展示室の中央部分を、広いイベントスペースとして使えるようにいたしました。今まで館内ではできなかった、人を集めての講演会や、子どもたちを集めての工作教室など、いろいろな活動に使うことができるようになっております。今年度も様々なイベントを行ってまいります。身近なところで興味関心を深めていけるような魅力のある講座をやっていければ良いと考えております。
- 議長 他に何かご質問はございますでしょうか。
- 広田委員 今回のことに関連して、浦和博物館の広いスペースで例えば物品を販売したりすることは可能でしょうか。
- 事務局 公の施設でございますので、可能かどうかということについても組織として検討していきたいと思いますが、なかなか難しい部分があると考えております。
- 広田委員 普段あまり博物館に行かないような方でも、例えばそこに地域の野菜が置いてあると良いのかではないかと思いました。
- 事務局 市立博物館の隣にできた「ビブリ」のお客さんが博物館に来てくださるというような傾向もありますので、博物館単体でいろいろすることは難しいかもしれませんが、そのような施設と連携を図ることができるか、少し検討させていただきたいと思います。
- 事務局 先ほど野田委員からお話ございました、学芸員の顔が見えるような企画を、ということにつきまして、当館の特別展で展示解説を6回行う、というのが例としてございます。確かにご指摘は重要な点で、展示解説に限らず、普段から学芸員はレファレンスに積極的に出るという姿勢で臨んでおりますが、今後より効果的に活動できるような形を生み出していきたいと考えております。
- 議長 他にご質問やご意見はございますでしょうか。
- 丸井委員 各館の入館者数について、新型コロナウイルスの影響で減っている傾向があるのは理解できるのですが、浦和くらしの博物館民家園は、ほぼ新型コロナウイルス流行前と数字が同じくらいですね。他館は少し減っているという中で、どういう理由で数字が戻ったのかお聞かせください。
- 事務局 民家園は非常に広いところにございまして、却って、現在アウトドアがブームになっているのと同じように、民家園の周りに散策に来る方が非常に多くなったと感じております。また、小学校の体験学習が令和2年度の1校に対して、令和3年度は40校近くお越しいただきましたので、落ち込みが少なかったのではないかと考えております。
- 議長 他にご質問やご意見はございますでしょうか。無いようですので、これで本日の議事を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。